

伊東直任

後月

ついでにそのめい志しじや洞のあめのおもろあめ

本交直任

八月

そこのうらまをわして村雲の平多とらんて山よる月

大坂被換奉行 運乃月

引合の二百平余人こゝ百年月なる運の月なる也

所々少敷 出る月

少敷のでるとの運後まらくと親をのみ花は待出る月

右天保三卯年春多よりこれる事有方人誦中一申

天保三卯年七月廿二日本不申の津軽後拾下

今朝の分以初ら波丸く人教被害  
おん切後いふ一咽根を突搦至い  
望せり暗お果

河内友 比州を御在りて代

柏木林とゆ

け者依ち十日に以系とあ氣る引合免死立風と五昇せ

私好と始末た死ス

逝去る人 同人書

昂死 或記す津松と有静うてき人是大勢加能子能初  
云下在自の初茶初ん若と見遠ひとてき口也

け者飛定 立定前と句死ス

昂死 山田依一卯

け者林の室振おむるとも腕切度され一旦君を生政い

河九石赤叶一厨也之死ス

首方切をうたのノ首切及之れ即死

日子代切室中

二里目筋切

以若今羽用白く之は不卓出、中一門内之這入り出

合之切敷り也

或説之空倉流忍洲邊と云る石押下、不存之大水を

帯り候之尺指を持之白ひし不古指を中央の切處に

刀は之を掛て積不切をうし大祇と云

即死

林一ゆ下

柏木澤詰

故尾目、外指松流り候相切、一年一即死と云

林一ゆ下

か保 廿五

即死

以若物版を焚く寸竈、糸、糸立り不後、切をケ出

指定前、切や不之死ス

小善信組

流中集人組

中善秀以印母

林一ゆ下母也

上急 三十一

以若林、向を縁、付林、ゆ之、運、爲、手、指

雨之、爲、印、母

雨之、一之、母 七九

左頼、あ、心、切、爲、下、九、左、太、後、切、爲、  
言、定、振、之、即、死

日人書

三十九

大自、麻、者、命、下

日人下

十九

一 腰のつがい切らぬ

山田中尉

山田

母宛の返り状 湯屋 古かへ 小児を養ふを

什敷書り也

日一人書

や名

三千二百

一 井戸堀る腕力此書中より余深紙

山田中使

と助

三千二百

一 啓留の尻と柳ヶ三才深紙

付着湯屋を 飯を多事とす 此書中を後分切付  
返り欠込り書を 打切付 此紙 此書 此書 此書

右林の社に於て 此切敷しむる書 此の返り書

一 天保元年辛寅七月

中不相生町並下目

塩原屋

大助

薪問紙

湯原村寺町

透源

関宿 東馬平末 曹洞宗 万幸山東陽寺

在太助書宛 三千七百

たみ

中不相下目

後野屋

佐吉ら娘

薪問紙